

十勝地域の農産物 実需者とマッチング

帯広地域雇用創出促進協議会

や食品の販路開拓、商品開発サポート、生産者・加工業者とユーザーとのマッチングなどを行うとともに、「食」と「健康」、野菜の「機能性」についてのデータ収集などを行っている。生産者などの情報は600社以上あり、すでに250件以上の取引成立を実現している。

北海道の帯広地域雇用創出促進協議会は、地域経済の活性化を促進し、地域に雇用を創出することを目的とした活動を行う団体。2012年度から厚生労働省の委託事業で、十勝産の農畜水産物

FOODEXでは、リーキ「とかちポワロー」（竹中農場）、「越冬熟成インカのめざめ」（ジャガイモ、波佐農場）、ビーツ（中村農場）といった野菜類や小麦粉のほか、シヤム、茶などの農産加工品を紹介した。

越冬熟成インカのめざめは収穫後5か月以上定



野菜類はシェフたちからも注目

温貯蔵することにより、でんぷんが糖化して甘みが増す。販売は2月から。ビーツはホルシチなどに向き、十勝地域で近年栽培が進んでいる。一方、リーキの栽培は十勝地域ではまだ少数。シーズンは9〜12月頃だが、

竹中農場ではその後定温倉庫に入れ、熟成させたものを販売している。定温熟成させることで甘みが増すといい、「輸入物が多い中、国産品が提供できるのは魅力」協議会の首藤忍氏としている。